令和８年度第１回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

通常事業事前審査　議事録

日　　時：令和８年４月３０日（木）　午後５時３０分から午後９時００分

場　　所：瑞浪市役所本庁舎　２階大会議室

出席委員：大宮　康一（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、柴田　洋子、
谷本　陽子、富田　宏、有賀　秀雄
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事務局：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　加　納　宏　樹

事務局職員：市民協働課長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　吉　田　和　史
まちづくり支援係　大　髙　まりあ

次　　第：１．委員自己紹介
２．市長あいさつ
３．議題
（１）審査会の役割について
（２）本日の審査会について
（３）審査会の進め方、申請状況等について
４．審査（質疑応答・市長講評）
５．事務連絡
６．閉会

【１　委員自己紹介】

≪委員長、副委員長自己紹介の後、配布の名簿の順に自己紹介≫

【２　市長あいさつ】

令和８年第１回夢づくり地域交付金等事業審査会にご出席いただきありがとうございます。今年度も引き続きお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほども紹介がありましたが、みずなみ未来部長が加納に代わりました。加納は５年間、秘書課長として勤務し、その間、様々な経験を積んでまいりました。このたび部長に就任いたしましたので、各委員の皆さまには、これまで同様にご指導を賜りますようお願いいたします。

また、中筬の後任として吉田が着任しました。吉田は５年間、新病院建設のために土岐市へ出向しており、病院の建設に携わってまいりました。その経験を生かしながら、今後も市政のために力を発揮してくれるものと期待しておりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

さて、おかげさまで各地域においては、地域計画の策定が大きな契機となり、それぞれの地域が主体的にさまざまな事業に取り組んでいただいております。一時期は、「何をやったらよいか分からない」「事業がマンネリ化している」といった状況もありましたが、そうした時期を乗り越え、現在では各地域ならではの特色を生かした事業が数多く見られるようになってきました。これも、委員の皆さまに毎年さまざまなご意見やご助言をいただいてきた成果の一つだと思っております。

また最近では、高校生や中学生、とりわけ中学生がまちづくりに積極的に参加してくれるようになりました。域学連携の取り組みも着実に広がっております。先日、日吉の天神窯春まつりに参加させていただきましたが、北中学校の生徒の皆さんがボランティアとして多数参加し、お祭りを大いに盛り上げてくれていました。天候にも恵まれ、大変華やかな催しとなっておりました。こうした動きは各地域でも見られ、中学生や「ミライ創ろまい課」の高校生の皆さんが地域活動に参加する機会が増えています。若い世代の参加が地域に新たな活力をもたらし、地域の皆さんの励みにもなっているのではないかと感じております。

本日、それぞれの地域から特色ある事業や計画についてご報告いただく予定です。ぜひ委員の皆さまには、さまざまな視点からご意見、ご質問、ご指摘をいただければ幸いです。私どもも、各地域が活性化するよう取り組んでまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【３　議題】

≪審査会の進め方について事務局より説明≫

〇委員

ベルを参考にしつつ、進行は基本的に委員長に一任することでよいか。

●事務局

当該進行方法で差し支えない。

【４　審査】

≪①各地区からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

土岐地区まちづくり推進協議会（以下、「土岐」）

○委員　地域防災力強化事業

学ぼうさいに参加させていただき、とても良い会だったと感じているが、参加者が少なくもったいない印象を受けた。土岐地区は単独のコミュニティーセンターを持たないため、まちづくりが中心となって活動しているが、集客面が弱いと感じる。区長会や子ども会などに積極的に呼びかけ、「区長会で周知し、班長を通じて伝えてもらう」などの工夫をすれば、参加者は増えるのではないか。また、１１０番・１１９番通報体験は非常に有意義であり、緊急時には動揺して正確に伝えられないため、より多くの人に体験してもらうべきだと思う。参加拡大の工夫をお願いしたい。

●土岐

今年度の事業に参考として反映していきたい。８年度事業ではこれまでと違った防災の形を検討しており、部会長とも連携しながら取り組んでいる。

○委員　地域防災力強化事業　学びのある講習会事業

「地域防災力強化事業」について、「土岐地区住民全体を対象に実施予定」とあるが、自治会未加入者へのアプローチはどう考えているのか。近年、自治会を辞める人が増えており、今後もその傾向が続く可能性がある。そうした方々を含めた参加促進の方法を検討してほしい。

「学びのある講習会事業」について、終活や生前整理など身近なテーマであり非常に期待している。こうした講座を通じて、まちづくり活動への参加者が増えることを期待しているため、早期の実施をお願いしたい。

●土岐

「学びのある講習会事業」は今年度から新規事業として開始する。担当部会長が強い意欲を持って取り組んでおり、期待に応えられる講座となるよう進めていく。

○委員　広報発行事業　地域防災力強化事業　花いっぱい事業

広報について、年間３，０００部を５回発行するとの記載があるが、単なる発行回数だけでは成果として見えにくい。編集方針などを明記し、広報を通じてまちづくりへの働きかけが伝わるようにしてほしい。

予算について、防災事業の非常食費１７万円について、単価や参加見込み数などの内訳を備考欄に記載すれば、計画の妥当性がより明確になるのではないか。また、子どもと一緒に行うスリッパづくりなどの活動は非常に良い取り組みであり、コミュニティ・スクールの観点からも評価できる。植栽事業についても、植えるだけでなく、その後の見守り活動を通じて子どもたちの学びにつながるよう継続してほしい。

●土岐

記載内容については、もう少し工夫できた部分があったと認識している。今後の資料作成の参考としたい。

〇委員

事業の開催時期について、準備の関係上年度後半に集中するのはやむを得ない面もあるが、１１月～１月は多忙な時期でもあるため、開催時期を分散することで関係者の負担軽減につながるのではないか。

＜市長コメント＞

土岐町のまちづくりの傾向として、単なるイベント型ではなく、実践的な学びや町民の方が体験できる事業を中心に企画されている点については、大変良い取り組みであると評価している。一方で、委員の皆さまからもご指摘があったとおり、参加者数については工夫の余地がある。せっかく良い事業を企画・実施しているにもかかわらず、参加者が少ない、あるいは参加目標の設定がやや控えめではないかと思われる。より多くの方々に参加いただけるよう、周知方法や事業のＰＲをさらに工夫していただきたい。過去には「学ぼうさい」において２００～３００人規模で多くの方が参加された実績もある。そうした良い事例を参考にしながら、新たな取組を進めていただくことで、今後さらに参加者の増加が期待できるのではないか。今後の取組にぜひ期待している。

日吉町まちづくり推進協議会（以下、「日吉」）

〇委員　特産品開発事業

「天狗の台所」の利用件数について、年間目標３０件は少ないのではないかと感じる。リニューアルや設備更新も行われていることから、日吉町民のみならず他地域からの利用も含め、より積極的な活用が進むようＰＲ方法の工夫をしてほしい。

●日吉

ご指摘のとおり、「天狗の台所」の利用については、現状ではＰＲ不足の面があると認識している。今回リニューアルを行い、小型機器の導入などにより、より手軽に利用できる環境が整っている。今後は町内外を問わず、さまざまな方法で周知を行い、利用促進に努めていきたい。

〇委員　移住定住促進事業

移住定住促進事業における空き家活用について、現状は移住目的が中心と理解しているが、それ以外の活用方法も検討されているのか。例えば、美術品の展示スペースとしての利用、保管スペースとしての活用、また夏季のみ家族で滞在するセカンドハウス的利用など、移住以外の柔軟な活用方法も可能ではないかと考えるが、方針を伺いたい。

●日吉

ご提案のような多様な活用方法については、現時点では具体的な取り組みには至っていないが、自由な発想による活用は歓迎したいと考えている。ただし、現状では空き家の把握自体が十分とは言えない状況であり、まずは実態把握と情報収集の強化が課題である。今後はチラシ等による周知を強化し、空き家の掘り起こしを進める中で、適切なマッチングにつなげていきたい。

〇委員

現状把握に加え、例えば「カフェに向いている物件」「段差が少なく活用しやすい物件」など、活用イメージを持ったうえで情報収集を行うことも必要ではないか。

〇委員　移住定住促進事業

空き家ツアーについて、主なターゲット層をどのように想定しているのか伺いたい。

●日吉

基本的には若い世代の移住者を想定しているが、実際のマッチング事例としては、農業や畜産に関心のある方との成約が多い。地域性も踏まえ、農業等に関心のある方に向けたアプローチも有効と考えている。また、近年ではパン屋を開業したいという若い女性からの問い合わせや、ＳＮＳを通じて「この地域は楽しそうだ」といった反応も寄せられている。いい移住委員会の活動やしいたけの植菌などの様子を発信したことが、関心の喚起につながっている。

〇委員

特定の事業紹介にとどまらず、個人が仕事を創出するような層に向けた情報発信やチャネル設計も、今後の戦略として検討してはどうか。

＜市長コメント＞

今回の発表は非常にわかりやすく、特に事業を３つに絞り込んで取り組まれている点については、これまでにない良い方向性であると感じた。地域計画策定を契機として、単なるイベント中心ではなく、地域活性化のために何が必要かという視点に重点を置いて取り組まれており、その成果が地域にも徐々に浸透してきているように感じる。特産品開発については、まちづくりで取り組んでいただくと同時に、天狗の台所については積極的なＰＲにより地域内外の方々にも広く参加・活用の機会を提供していただきたい。また、「いい移住委員会」のチラシについては、非常にわかりやすく印象的な内容となっている。写真からも若い世代の方々が中心となって活動されている様子が伝わり、今後のまちづくりにおいて大きな期待が持てる内容であると感じた。さらに、移住定住の考え方については、これまでの「移り住んでもらう」という視点に加え、空き家の活用など、より柔軟な利活用の視点を持つことも重要であるとの意見があり、私自身も大変参考になった。今後はそうした多様な活用のあり方についても検討を進めていただきたい。また、配布されたすごろくのチラシ自体も非常に印象的であり、今後これをきっかけに多くの情報が集まることを期待している。もし今後このチラシのみで配布される場合は、連絡先等の記載も必要になるかと思う。今後の取組に期待している。

特定非営利活動法人　釜戸町まちづくり推進協議会（以下、「釜戸」）

〇委員　釜戸暮らしのお助け隊事業

お助け隊事業について、試験運用として検討されているとのことだが、ぜひ進めていただきたいと考えている。一方で、社会福祉協議会においても既にボランティアによる「お助け隊」の仕組みが存在していると認識している。民生委員として、ごみ出し支援を社協の「お助け隊」につなげた経験もある。その中で、まず有償化についてであるが、利用者の中には「無料では頼みにくい」という声もあり、有償の方が利用しやすいという意見もあった。一方で社協の事業は無償ボランティアであり、またポイント制による仕組みもあると聞いている。有償・無償のどちらが適切かについては検討の余地があると考

える。また、近隣住民に依頼することへの心理的な抵抗感も一部にあり、高齢者の中には頼みにくいという声もある。地域の実情や住民の本音を丁寧に把握しながら、「頼みやすい・頼まれやすい関係性」が成り立つ仕組みとなるよう検討してほしい。

●釜戸

高齢福祉課の支援者サロン等を通じて市内の状況は把握しており、社協にも既存の「お助け隊」制度があることは認識している。ただし、釜戸地区には同様の仕組みがない現状がある。有償・無償については、無償で継続できることが理想ではあるが、現実的には継続性の観点から課題があると考えている。人口減少や地域役の負担増の中で、新たな負担を増やす形ではなく、対価を伴う仕組みとすることで持続可能性を確保したいという考えから有償制度を検討している。また、有償とすることで、依頼者・提供者双方の負担感を軽減し、対等な関係性を構築する狙いもある。今後の制度設計にあたっては、慎重に調査を行う予定である。参考としている事例としては、豊田市旭地区の有償ボランティアの仕組みがあり、全戸アンケートにより「必要な支援」と「提供可能な支援」を把握する手法を取り入れている。本事業においても、住民の困りごとや地域資源を丁寧に把握する調査を行っていきたい。

○委員 釜戸暮らしのお助け隊事業　釜戸町夏まつり　伝統文化継承事業

お助け隊事業が事業として成立すれば、他地区への波及も期待できる。また、釜戸地区では夏祭りやコミュニティ・スクールの取組が進んでいると聞いている。子どもたちの活躍の場として、竜吟太鼓などの活動も行われているが、夏祭り等において子どもたちが主体的に関わるブース運営などの機会を設けてはどうか。子どもが地域の大人と協働する経験は、地域への愛着や誇りの形成に大きく寄与するというデータもあり、こうした取組の拡充を検討してほしい。また、和太鼓の学習会については、授業で実施していると思うが、地域住民への周知や参加機会を広げることで、学習と祭りの活動がより一体的に発展するのではないか。

●釜戸

和太鼓演奏については、プロの指導のもとで子どもたちが学び、一定の習熟度に達した上で演奏を行っている。保護者やコミュニティ・スクール委員等も鑑賞しており、好評を得ている状況である。今後は、地域への広がりや参加の機会をさらに増やす方法について検討していきたい。

○委員 竜吟峡ホタル祭り＆観賞ウィーク

瑞浪駅にてホタルまつりのチラシを見かけたが、やや小さく目立ちにくい印象であった。複数のイベントを連携して実施する場合は、通行者の目に留まるよう、より大きく分かりやすい形での広報・周知を行うと効果的ではないかと感じた。

●釜戸

釜戸町向けと合同事業向けでチラシを分けるなど、広報手法の工夫を検討している。また、駅前等への掲示についても、より目に留まりやすい内容となるよう改善を図っていきたい。

＜市長コメント＞

釜戸町は、まちづくりの歴史が比較的長く、これまでの経験を着実に積み重ねながら、取組をさらに発展されている点について、大変すばらしいと感じている。特にホタル事業については、明世町との連

携による取組が行われている点を評価しているが、現状では連携がやや十分とは言えない面もあると感じている。今後は明世町と十分に協議を行い、相互に効果が高まるような連携強化の工夫を検討していただきたい。これにより、より効果的なＰＲにもつながるものと考える。また、釜戸町には竜吟峡という大きな観光資源があり、ふれあい館をはじめとした施設も含め、これまでも有効に活用されている。昭和の時代には２０万～３０万人規模の観光客が訪れていた実績もあることから、当時に匹敵するような観光地としての魅力向上を目指していただきたい。ホタル事業に限らず、竜吟峡全体を活用したまちづくりについて、ふれあい館等と連携しながら、より広がりのある取組を進めていただければと思う。

さらに、お助け隊事業については、ぜひ推進していただきたいと考える。有償ボランティアの仕組みについても一定の評価をしているが、料金設定の妥当性や金銭の取扱いについては慎重な検討が必要である。特に、金銭のやり取りについてはルールを明確に定めないと、誤解やトラブルが生じる可能性もあるため、先進事例を参考にしながら、適切な制度設計を行っていただきたい。本取組が円滑に運用されれば、他地域への展開も期待される先進的な事例になるものと考えている。ぜひ成功に向けて取り組んでいただきたい。

大湫町コミュニティ推進協議会（以下、「大湫」）

〇委員

本事業は大湫町だけでなく、他地区でも実施してほしいと思える内容であった。以前、近所で小火が発生した際に消火ホースを使用した経験があるが、実際にはうまく扱えず、消防車の到着まで十分な対応ができなかった。また、家庭に消火器はあるものの、実際に使用したことはない。設備の場所を知っているだけでは十分ではなく、実際に操作を体験することが重要であると感じた。防火意識の向上につながる非常に有意義な事業であると考える。

〇委員

町民主体で訓練を実施することで、防火意識の向上につながる大変良い取組であると感じた。一方で、夢づくり地域交付金を本事業に充当することは理解できるが、地域交流や青少年育成など他の地域活動にも資金が必要であると思われる。そうした活動に必要な資金は確保できる状況にあるのか伺いたい。

●大湫

他の事業についても実施できる状況にはあるが、厳しい財政状況の中で運営している。近年は全国的に山火事が多発しており、大湫町においても防火対策は喫緊の課題となっている。そのため、今回は地域の強い要望を踏まえ、防火対策を最優先の事業として取り組むこととした。

〇委員

消火栓を設置するだけでなく、実際にホースから放水する訓練を行うことは非常に重要である。操作方法は時間が経つと忘れてしまうため、消火器の訓練も含め、定期的に実践できる機会を設けることを検討していただきたい。また、設備を設置すると盗難の心配もあるため、定期的に設備を確認する体制についても検討していただきたい。

●大湫

現在は重点地区を対象に訓練を実施しているが、対象地区以外の住民も参加できるよう働きかけてい

きたいと考えている。設備の盗難対策については、地元消防団と連携し、定期的な確認を行っていきたい。

〇委員

今回の発表は夢づくり地域交付金事業の説明が中心であったが、他地区では交付金事業だけでなく地域全体の活動についても紹介している。大洲町でも、普段どのようなまちづくり活動を行っているのかが分かる内容も聞いてみたかった。次回はそのような内容も紹介していただきたい。

●大洲

夢づくり地域交付金は、その時々で地域にとって必要性の高い事業に活用している。昨年度は子どもたちのバス待合所を整備し、本年度は防火対策を最優先とした。地域では他にも様々なまちづくり活動を行っており、今後はそうした活動についても紹介できるよう検討したい。

〇委員

今回の事業以外にも候補となった事業があったのであれば、その検討過程や地域全体としてどのような課題を抱え、どのような考えで事業を選定したのかを紹介してもらえると、大洲町全体の取組がより理解しやすくなる。

●大洲

事業候補は複数あったため、今後発表する機会があれば、選定の経過も含めて紹介したい。

〇委員

消火設備が活用され、人命や財産が守られることを期待している。一方で、火災が発生した際に住民がどのように行動し、どこへ避難すればよいのかについて、市として避難マニュアル等が整備されているのか伺いたい。

◎事務局

避難所は指定されており、区長会等を通じて住民へ周知している。

●大洲

避難に関する情報はあるが、火災発生時には住民がまず初期消火に向かうことが想定されるため、安全確保についても重要な課題であると認識している。

〇委員

火災時には、避難場所だけでなく、連絡体制や安否確認の方法、要配慮者への対応などについても住民の意識を高めることが重要である。

●大洲

大洲町は宿場町時代から幾度も大火を経験している。今回いただいた意見を踏まえ、火災時の安全確保や避難体制についても十分留意しながら取り組んでいきたい。

＜市長コメント＞

大洲町のまちづくりは、長年にわたり地域課題の解消を中心に取り組まれており、今回は防火対策というタイムリーな課題に対応した事業であることから、高く評価したい。また、大洲町では夏祭りや秋祭りをはじめ、素晴らしい地域イベントが数多く開催されている。広報などを見せていただければ、地

域の取組がより伝わると思う。現在の状況を考えると、大洲町で最も心配されるのは山火事である。町内にはゴルフ場があり、市外・県外から多くの来訪者があることから、たばこのポイ捨てなどによる火災発生のリスクは高い地域であると考えている。そのため、今回整備する消火設備を有効に活用していただきたい。設備は設置するだけではなく、実際に活用できることが重要である。そのためには訓練をしっかり実施していただきたい。大洲町は消防団経験者も多く、ホースの取扱いにも慣れている地域だと思うが、継続して訓練を行うことが何より大切である。今後も万一の火災に備え、訓練に取り組んでいただきたい。

特定非営利活動法人明日の稲津を築くまちづくり推進協議会（以下、「稲津」）

〇委員　まちづくり推進事業　社会福祉推進事業

「いいなっつ」などを活用した情報発信により、町民が事業を楽しみにしている様子が伝わってきた。さつまいも栽培については、植え付けと収穫だけでなく、その間の成長を見守る活動につながる工夫も検討していただきたい。例えば、植え付けた場所に子どもたちの名前を書いたカードを設置すれば、自分が植えた苗への愛着が生まれ、成長を見に行く機会にもなる。収穫時には、育てる過程を経験したことで、より大きな喜びや学びにつながると考える。これは花づくりの活動についても同様である。

また、「ふれあい広場」は多くの参加者がおり、大変良い取組であると感じた。一方で、写真を見る限り女性の参加が多い印象を受けた。男性高齢者は、単に参加を呼び掛けるだけでは参加につながりにくく、役割や担当を持つことで参加しやすくなる傾向がある。そのような工夫も参考にしながら、参加促進について検討していただきたい。

●稲津

農園事業については、苗植えに向けた準備作業を地域住民約５０名の協力を得て実施する予定である。収穫祭では収穫の喜びを共有できる一方で、植え付け後の過程をどのように充実させるかが課題であると認識している。参加者に継続的に関わってもらうための企画も検討したが、スタッフの負担が大きくなると事業継続が難しくなるため、負担とのバランスを考慮する必要がある。今回提案のあった名札を設置する方法は有効なアイデアであり、今後検討していきたい。

〇委員　環境保全事業

環境保全事業として実施する「まちづくり整備作業」について、具体的な活動内容を伺いたい。

●稲津

町内の史跡である小里城跡及び止静庵の環境整備を、地区の区長会を中心に実施する。また、夏まつり開催に向け、公民館周辺の除草や樹木の剪定、公民館近くの旧保育園跡地の草刈りを行い、駐車場として利用できるよう整備する予定である。このほか、農園周辺の除草や、中学校水洗線沿いの桜並木の草刈りなど、計６か所の環境整備を関連団体と連携して実施する。場所ごとに草木の生育状況が異なるため、昨年度の反省も踏まえ、実施時期について改善を図りながら進めていきたい。

〇委員

多くの箇所で環境整備を実施する大変な作業であると感じた。夏場の暑い時期であることも踏まえ、作業時期に配慮した計画が大切ではないか。

＜市長コメント＞

稲津町は、まちづくり組織がＮＰＯ法人として法人化され、組織体制がしっかりと確立されていることが大きな特徴である。また、町内にある３２の団体が構成員として参画し、それぞれの役割を担いながら、７つの事業区分、２０項目にわたる多様な事業を展開されていることを高く評価したい。

私も多くの事業の案内をいただき、ほぼ毎回参加しているが、どの事業も参加者が非常に多く、町民の皆さんが楽しみに参加されている様子がうかがえる。これは、情報発信が町民だけでなく町外にも効果的に行われている成果であると感じている。毎年継続して実施している事業であっても、その内容に工夫を加え、新しい企画を取り入れながら実施されており、今後もこうした工夫を続け、さらに稲津町のファンが増えるようなまちづくりを進めていただきたい。

陶町明日に向って街づくり推進協議会（以下、「陶」）

〇委員　交流人口拡大事業　文化振興事業

祭りについて、地域３か所それぞれで実施しているが、人口減少や少子化の影響もあり、地域ごとの負担になっているのではないかと思う。例えば「あ・うんコンサート」や落語のように持ち回りで実施し、「今年はここ、来年はここ」という形で協力して１つにできないかと考える。ただし、地域が実施しているものであるため、変更は難しい面があることも理解している。その上で、負担軽減や参加しやすさ、集客の観点から、見直しや工夫も必要ではないかと感じる。

また、中馬街道マップについて、増刷されるほど配布されているのであれば、今後はそれを活用することが重要だと考える。まずは関係者自身がマップを使って中馬街道を歩く企画を実施し、その良さを実感した上で外に発信していくことで、マップの活用につながるのではないか。

●陶町

陶の体協では３地区持ち回りでウォーキング事業を実施している。中馬街道マップを使ったウォーキングという発想はこれまでなかったが、せっかく作成したものであり、有効活用できる取組になると感じる。

夏祭りについても、３つを１つにするのは難しいかもしれないが、共同で実施している活動もあるため、将来的には今回のような意見も踏まえ、無理なく楽しめる形を検討していきたい。開催時期も近いため、「今年は大川のお祭りだから水上も来てください」といった交流も可能であり、そうした発想も取り入れていきたい。

〇委員　文化振興事業

中馬街道という市境・県境を越える取組について、市や県の枠組みを超えたつながりやネットワークの有無について確認したい。

●陶町

昨年「中馬街道サミット」が上矢作で開催され、飯田、上矢作、明智、陶、曽木、信濃など中馬街道沿線の地域が参加し、それぞれの取組について発表が行われた。各地域においてウォーキングや勉強会などを実施しているが。各地域の熱意はあるものの、共通の課題として後継者不足がある。サミットでは情報交換や資料配布を行った。陶町も観光マップを提供し、今後作成する歴史散策マップも共有する予定である。サミットの継続についても意見交換は行われたが、次回開催は決まっておらず、継続は不

透明な状況である。ただし。資料提供や相互参加を通して継続的に関わっていきたい

〇委員

中馬街道を軸とした地域連携について、陶町が中心となって盛り上げていくことも一つの方法ではないかと考える。また、バイクツーリングなど利用者も多いことから、マップを活用したスタンプラリーなどの仕組みを導入すれば、広域的な連携がさらに発展する可能性があると考える。加えて、各地域が抱える少子化や地域縮小の課題を踏まえると、中馬街道を軸にした観光振興だけでなく、子育てや福祉なども含めた地域間ネットワークを構築し、課題共有と連携を進めていくことが今後重要になると感じる。

＜市長コメント＞

事業説明については、私も日頃からさまざまな事業にお招きいただき、陶町の皆さんが熱心に取り組まれていることは十分承知している。今年度もさらに創意工夫を重ねながら、取組を進めていただきたい。

冒頭に子育てについての発言があり、他市との比較などの話があったが、まずはそれぞれの地域でできる工夫を行うことが重要であると考える。例えば釜戸町では、地域の有志がコミュニティーセンターを活用し、小学校への迎えや放課後の子どもの預かりを行い、その取組が発展して学童クラブの設立につながった事例がある。また日吉町でも、夏季限定ではあるが、保護者が主体となって子どもの居場所づくりを行い、市としても支援しながら事業が継続されている。陶町には児童館という重要な施設がある。他の地域にはない施設であり、これを活用することが重要である。「不便である」といった指摘のみを行うのではなく、使い方や運用方法について地域と一緒に考えていくことが必要である。また、他市との比較についても、近隣市が全域で同一のサービスを提供しているのかどうかを含め、実態を踏まえて議論すべきであると考える。要望についてはしっかりと受け止めるため、今後も建設的な意見をお願いしたい。

明世地区まちづくり推進協議会（以下、「明世」）

〇委員　明世ホタルの里“福”鑑賞会　スポーツ推進事業

フルート演奏について、非常に良い試みであると感じた。有料（３，０００円）とのことであるが、その設定も含めて興味深い取組である。一方で野外開催であるため、会場に入らなくても音が聞こえる可能性があり、料金を支払わずに鑑賞できてしまう状況が生じるのではないかと感じた。その点についてどのように対応を検討しているのか伺いたい。

また、スポーツ推進事業について、ノルディックウォーキングが実施されているが、成果目標が令和５年となっている点は令和８年の誤りではないか。さらに、参加者約１６０人程度とのことであるが、新規参加者が増えているのか、それとも継続参加者が中心で高齢化が進んでいるのか。新規参加者の掘り起こしについてどのように取り組んでいるのか伺いたい。加えて、ポールディックウォーキングというものを新聞で見た。ポールディックウォーキングは１つのポールの先端が４つになっており、高齢者には姿勢改善にも良いとされている。健康寿命の延伸の観点からも、今後そのような新しい取組も検討できるのではないかと考える。

●明世

フルート演奏の金額はコラボする「瑞浪暮らしの彩りマーケット実行委員会」からの助言も踏まえて設定したものである。連休明けにはインターネットやインスタグラム等を活用し、一斉に募集を行う予定である。また、演奏会場については野外であり、入場制限を設ける予定である。前回のような混雑を避けるため、会場内への立ち入りを制限する一方、生活道路としての通行は確保しつつ、運営方法を調整しているところである。

ノルディックウォーキングの成果目標の誤りについては、ご指摘のとおり。参加者の高齢化が進んでおり、継続参加者が中心となっている現状がある。新たな手法としてポールディックなど別の方式への転換も含めて検討することは面白いと感じている。周知については区長会等を通じてチラシ配布などを行っているが、参加者が増えない状況が続いており、今後も工夫が必要であると認識している。

○委員　青少年育成事業

地域計画における中京高校と耕作放棄地対策について、報償費２万円の支出先はどこか。

●明世

耕運機を使用し、田んぼの耕起や草刈りなどの事前整備を行う作業への謝礼である。その上で高校生に作業へ参加してもらう仕組みであり、あくまで支援的な立場で実施している。昨年度は関係者の負担が大きくなりすぎたため、今年度は外部支援としての位置付けを明確にしている。資料上その内容が分かりにくいため、改善する。

○委員　ホタル育成事業　明世ホタルの里“福”鑑賞会

ホタルの里について、昨年の大雨で土砂流出があったと聞いているが、その後の状況はどうか。

●明世

瑞浪市の支援を受けて改修工事を実施し、すでに完了している。また、ステップアップ事業を活用し、安全対策としてゴムマット等の整備も行い、環境改善を図っている。現在は良好な状態であり、今年は幼虫の状態も良く、夜間には多くの個体が確認されている状況である。今後の発生状況にも期待できる見込みである。

＜市長コメント＞

明世町については、まちづくり組織が立ち上がった当初は、区長会との連携が十分に取れず、大きな成果につながる事業が少ない状況であった。しかし近年は、先進的な取組が進められており、特に評価すべき点として、他のまちづくり組織との連携を行った場合に交付金を上乗せする仕組みなど、制度設計の面でも参考となる取組が見られる。

また、「明世ホタルＮＩＧＨＴ」に代表されるように、「瑞浪暮らしの彩りマーケット実行委員会」といった民間のグループと連携し、ホタル事業をコラボレーションすることで大きな成果を上げた事例は非常に評価できるものである。こうした明世町の取組を参考にし、来年度からは民間企業や各種団体との連携によるまちづくり事業について、条件を満たし審査に通った場合には、別途５０万円を上限として支援を行う制度を導入した。こうした制度を積極的に活用し、明世町においては、既存の連携にとどまらず、地域内に多く存在する企業や事業所とも連携しながらこれまで以上に大きな成果につなげてい

ただきたい。

瑞浪地区まちづくり推進協議会（以下、「瑞浪」）

〇委員　青少年育成事業

農業体験について、諸費用の中に参加者の保険料は含まれているか。また、６月の事業だけでなく、それ以外の活動にも保険が適用されるのか。

●瑞浪

農業体験全体を対象とした保険に加入しており、万一のけがなどに対応している。６月の事業だけでなく、苗の植え付けや草刈りなど、年間を通じた農業体験全体が保険の対象となっている。

〇委員　総務広報事業

みずなみ夏の寺子屋について、分校をつくるという話を大変興味深く聞いた。寺子屋を運営する費用とは別に、人材育成という形で予算を組むことも考えられるのではないか。

●瑞浪

人材育成については以前から考えている。寺子屋では大人が関わるよりも高校生が関わる方が子どもたちの反応が良い。ボランティアの募集方法や運営方法を学びながら一緒に活動してもらう人材育成に予算を充てることについても検討したい。

〇委員

交付金の審査項目にも地域組織の強化という視点がある。最終的な目標につながる取組として、人材育成を具体的に進めていくことも必要ではないか。

〇委員　青少年育成事業

コミュニティ・スクールでアサギマダラが飛来し、２年目にして成果があったことについて、教育委員からもアイデアが素晴らしいと高く評価され、ぜひ他地域にも広げてほしいとの話があった。夢があり、子どもたちがわくわくできる素晴らしい事業だと感じた。中学校との語る会でこの取組を展開できることも良い取組であり、瑞浪中学校にもアサギマダラが飛来するとよい。

●瑞浪

フジバカマの苗は各地区へ配布し植え付けを行っている。飛来については自然条件にも左右されるため、花を育てながら見守っている。

〇委員　防災防犯事業

青色回転灯パトロールについて、他地区では高齢化により夜間の巡回を取りやめるなど活動が縮小している中、防犯活動を続けてもらっていることは大変ありがたい。定年退職後の方などが活動を支えていると思うが、どのような啓発活動を行っているのか。他地区でも参考になるのではないか。

●瑞浪

青色回転灯パトロールは以前から続いている活動であり、縮小を求める意見もあるが継続している。高齢化により夜間の巡回が負担になっているため、地域の協力員と一緒に巡回したり、防犯活動の意義や過去の事例を共有したりするなど、小さな積み重ねで参加者の意識を高めている。昼間の巡回も増や

していきたいと考えている。

〇委員　総務広報事業　防災防犯事業

ナイトバブルは子どもたちが喜んで参加しており、新しい活動として良い取組だった。一方で、ルールを守ることも必要であり、子どもらしさとのバランスも大切だと感じた。

寺子屋分校についても、子どもの居場所づくりとして各地区へ広がっていくことを期待している。

また、青色回転灯パトロールでは通信費が計上されているが、当番連絡はＬＩＮＥなども活用できるのではないか。

●瑞浪

現在は郵送による連絡を基本としている。ＬＩＮＥよりも郵便の方が責任を持って当番を引き受けてもらえると考えているが、それでも無断で休む人はいる。

〇委員

郵送は手間も時間もかかるため、効率化も必要ではないか。また、健康福祉事業のウォーキングについては参加者から年２回開催を希望する声も聞いているため、検討してほしい。

●瑞浪

現在は土岐川ウォーキングだけでなく、瑞浪の山を巡るコースも検討している。万尺川から神明神社方面を歩くコースなどを考えているが、安全なコースとなるよう現在検討を進めている。

〇委員

他地区では、作成しているマップを活用しているところもある。年度ごとにコースを変えて実施する方法もあるのではないか。

〇委員　総務広報事業

寺子屋分校の運営には高校生ボランティアの確保が重要になる。市内の高校だけでなく近隣市の高校にも声をかけ、瑞浪を知ってもらう機会として広げていくことも良いのではないか。

●瑞浪

まずは市内３校の高校との連携を進めたい。その上で、必要に応じて市外の高校との連携についても考えていきたい。

〇委員

周辺の高校生に来てもらうことで、瑞浪を知ってもらう機会にもなり、新たな効果も期待できるのではないか。

＜市長コメント＞

瑞浪地区は、当初企画した事業を継続して実施しながら、少しずつ内容をバージョンアップし、現在のような成果につなげている点を評価したい。

発表のあった「さくらさくらのさんぽみち」についても、これからのまちづくりの先駆けとなる取組だと感じている。もともと事業を実施していた団体が高齢化により活動の継続が難しくなり、「何とか引き継いでほしい」「市で対応できないか」といった相談があった。その際、会長にも相談し、「できる範囲で取り組んでいこう」というところからスタートした。既に瑞浪を代表する観光名所の一つとなって

いたこともあり、ぜひ継続してほしいという思いがあったが、市がすべてを担うことは難しい状況だった。その中で、今年は本格的に取り組んでいただき、多くの来場者があったと聞いている。大変素晴らしい成果であり、高く評価したい。

市内にはさまざまな団体が活動している一方、多くの団体が課題を抱えている。そうした団体と連携し、これまでの活動を引き継ぎながら、さらに発展させて地域活性化につなげていくことは、これからのまちづくりの一つの方向性ではないかと思う。市としても、そのような取組は積極的に応援していきたい。引き続き、素晴らしい成果につなげてもらいたい。

【５　事務連絡】

≪事務局より事務連絡など≫

【６　閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上